



中種子町立 野間小学校

児童数 258人
学級数 12クラス



テーマ

人権尊重の精神を基にして、豊かな心情をもち、認め合い、励まし合ってなかまとともに差別をなくしていける児童の育成

研究に当たって(テーマ設定の理由)

本校は、「人権の日」を設定し、異年齢での体験型学習を行うなど、人権問題について学習を行ってきた。全体として相手を認め合う雰囲気を感じることはできるが、学級の望ましい人間関係づくりには課題が見られた。そこで、本年度は児童一人一人が自分事として考え、更に自己肯定感を高められるように努めたいとテーマを設定した。

研究スケジュール

5月1日(金)	校内研修 「今年度のテーマについて」
7月31日(金)	講師招聘による校内研修 「部落問題学習の指導の在り方」
11月16日(月)	人権旬間に向けて校内研修
12月12日(土)	野間小人権の日 人権の授業及び校内研修
2月8日(月)	学級での取組のまとめ

特色ある取組(他校にもおすすめの取組)

□ 委員会活動による取組

人権に関する本の紹介、標語の募集や選考、ポスターの作成、放送による児童のよい行い紹介など、児童主体で取り組み、意識が高まった。

□ 掲示物

「もちあじは たからもの」など、自他のよいところを認識する活動を各学級で行った。個々の自己肯定感を知ったり、高めたりするよい機会になった。



【めざせ!こんなクラス】

□ 道徳の授業を通して

人権教育教材「ひらく」を使って、各学年で道徳の授業を実施した。ハンセン病に関する児童の疑問について講師に詳しく説明していただいた。

□ 参加型学習

「野間小人権の日」に、各学級で道徳の授業を実施し、引き続き学級活動の授業で参加型学習を行った。道徳の資料から離れ、実際に自分たちの学級や自分自身はどう考え、今後どうしたいのかなど、深く考えることができた。



【もちあじは たからもの】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題(子どもの変容,よかったこと,今後やってみたいこと)

- 発達段階や学級の実態に応じた学習に取り組んだことで、学習内容を自分たちの課題として捉え、自己を振り返り、更にお互いを理解しようとする気持ちが高めることができた。
- さまざまな人権課題について確実に学ぶ機会を設け、差別に気付き、なくしていける児童を育てたい。また、児童の自己肯定感を高める指導、教師の人権感覚や知識の向上を継続的にやりたい。